

## 第2回アジア大学協会大会参加報告

野中進（埼玉大学国際本部・人文社会科学研究所）

### 参加の経緯

去る2016年6月23-25日、ロシア連邦バルナウル市アルタイ国立大学で開催された第二回アジア大学協会大会に参加したので、以下、簡単に報告を行う。

アジア大学協会（Association of Asian Universities）とは、ロシア・カザフスタン・キルギスタン・タジキスタン・アルメニアの旧ソ連構成国の他、中華人民共和国、モンゴル、タイの諸大学からなる国際的組織である。高等教育の国際化の発展を目的としている。2013年に発足し、今回第二回大会を開催するに至った。この三年間、アルタイ国立大学長が会長、同大学が幹事校を務めてきた。

埼玉大学はアルタイ国立大学と長年、研究・教育面で協力関係にある。今回の大会ではオブザーバーとしての参加を求められ、国際企画室長として野中が参加した。日本からは唯一の参加ということもあって、大変歓迎され、取材も三回受けた。正式な参加国は8、参加大学は24であった。

### 大会の概略

大会初日は、アルタイ国立大学の研究施設や博物館ツアーが行われた。大学紹介ビデオには本学の井上直也教授（理工学研究科）が埼玉県の高校生を連れて大学訪問をした時の様子なども映し出されていた。

夕方から会議が始まり、各大学から教育・研究の国際化に関する取組と諸問題について報告された。アルタイ国立大学副学長ロマン・ライキン氏は同大学のグローバル化について詳細な報告を行ったが、基本的には日本を含め世界の諸大学とよく似た課題に直面していると感じた。具体的には、グローバル化に関する学生の満足度（奨学金、住居など）、国際インターンシップの開発、国際的な共同研究の推進、国際大学ランキングなどである。

大会二日目は、次期会長の選挙が行われ、カザフスタンのレフ・グミリョフ記念ユーラシア大学長が選ばれた。次回の大会はアスタナで開かれるだろう。また、新規参加校の承認などの公式的な手続きが行われた。

大会三日目は、参加者たちのためにバルナウル郊外のエクスカーションが企画され、アルタイ地区の歴史と自然の豊かさに触れることができた。公式的会議の後のエクスカーションではインフォーマルな情報も得やすく、貴重な機会であった。

### まとめ

アジア大学協会は基本的には、ロシアのシベリア地域の大学、中央アジアの大学、そ

して中国の大学が軸となる組織であって、日本の大学がすぐに入会を考える組織ではない。しかし、ユーラシア大陸中央部をカバーする大きな大学協会として今後の動向に注目する価値があると思われる。

個人的に印象的だったのは、いくつかの国が向き合うユーラシア中央部では、ロシア語がまだ国際語として重要な役割を果たしており、学生交流などがきわめて容易だということであった。またカザフスタンやキルギスタンからの参加者の話では、「モスクワやペテルブルグに送るより、地理的に近いアルタイに送る方が安いし、保護者も安心する」とのことだった。アルタイ国立大学は、ロシア全体でみれば一地方大学でしかない。だが、地の利を生かして、ユーラシア中央部で有力なネットワークを作りつつあると感じた。本学でもこのような独特な取組が必要だろう。

